

αCDがI g E上昇抑制

ケムシクロ
抗アレルギー作用の機序確認

(株)シクロケム(神戸市中央区)は、αシクロテ

キストリン(CD)の抗

アレルギー作用のメカニ

ズムを調べた結果、血液

中のI g E抗体量の増加

を抑制することが確認されたと発表した。

マウスに、アレルギー

症状の一つとされるアト

ピー性皮膚炎を強制的に

発症させ、αCDまたは

グルコマンナンを自由摂取させて、一定期間飼育した後に血液中のI g E抗体量を測定した。その結果、I g E抗体の減少作用が認められている

という。これにより同社では、αCDはI g E抗体量を抑制して、抗アレルギー作用をもたらすことが示されたとしている。

αCDは包接作用があることから、主に機能性成分の水溶化、安定化などを目的に利用されている。

る。しかし、構成成分は6つのオリゴ糖で、水溶性食物繊維でもある。食物繊維は整腸作用を持ち、腸管の免疫力向上と関係していることが認められている。このため同社は、これまでにアレルギー性鼻炎や気管支喘息、アトピー性皮膚炎の患者にαCDを2カ月間1日5g摂取してもらった試験を行い、改善した症例を多数確認していた。